

# 情報リテラシー教育ルーブリック（一橋大学附属図書館 2026年度版）

## 【ルーブリック策定の目的】

一橋大学附属図書館において情報リテラシー教育活動を行うにあたり、その対象者のレベルに応じて期待される行動指標や、獲得すべき能力・知識を定め、個々のガイダンスの設計・見直しに際しての基準とする。

なお、策定に当たっては「高等教育のための情報リテラシー基準 2015年版（国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会）」に基づいた。

表1. レベル別ガイダンス（2026年度（予定））

2026/2/10現在

レベル 主な対象者	初級 学部1, 2年生	中級 学部2, 3, 4年生	上級 学部4年生, 大学院修士課程以上
ガイダンスと そのレベル範囲	①リサーチ・スキルズ		
	②レポートの書き方ワークショップ		
	③法学ワークショップ		
	④大学院新入生向け図書館ガイダンス		
	⑤データベースガイダンス		
	⑥オンデマンドガイダンス		

表2. 目的とする参加者の習得スキル（基準）と該当するガイダンス番号

課題解決のための情報活用 行動プロセス	初級＝基礎：与えられたテーマ・情報源 をもとにレポートを作成できる	中級＝応用：与えられた課題について 自らテーマを設定し、先行事例を 踏まえた上で自らの意見を含んだレ ポートの作成・発表ができる	上級＝発展：自ら調査・研 究テーマを設定し、学術的 な論文の作成・発表ができ る
<u>1. 課題を認識する</u> 課題を認識し、その解決に 必要な情報の範囲を定める	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の意図を正しく理解する。 ②③</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に沿ったテーマを設定できる。 ②③</li> </ul>	
<u>2. 情報探索を計画する</u> 必要な情報入手のために探 索計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書、雑誌、インターネット等、情 報・メディアの種類が多岐にわたるこ とを理解し、それぞれの特性を説明で きる。①⑥</li> <li>貸出・予約・レファレンスサービス等、 文献入手に関わる図書館サービスを利用 できる。①④⑥</li> <li>著作権法等、情報を探索する際の適法 性に留意できる。①②④⑥</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査テーマに関する先行事例の調 査を行うことができる。①④⑤⑥</li> <li>課題の解決に適した信頼性の高い 情報源を推測できる。⑤⑥</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>信頼性の高い情報を選択 できる。⑤⑥</li> </ul>
<u>3. 情報を入手する</u> 情報探索ツールを適切に選 択・活用し、情報を効率的 に入手する	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館の蔵書検索ツールを利用し、指 定された資料を検索・入手できる。① ④⑥</li> <li>参考・引用文献リストを適切に読み取 り、調査に活用できる。①⑥</li> <li>与えられた情報源を検索できる。①④ ⑤⑥</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文献検索の検索語（同意語、上位 語、下位語）を工夫し、デー タベースを検索できる。①⑤⑥</li> <li>データベースを活用し、必要な情 報・資料を検索できる。①④⑤⑥</li> <li>情報の出所や信頼性を点検・確認 できる。①⑥</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先行研究論文等の引用文 献リストを利用し、計画的 に探索できる。⑤⑥</li> <li>他機関の図書館から文献 を取寄せるなど、図書館 のサービスを必要に応じ て利用できる。④⑥</li> </ul>
<u>4. 情報を分析・評価し、 整理・管理する</u> 収集した情報を体系的に整 理・管理する	<ul style="list-style-type: none"> <li>学術的な文章の要旨をまとめることが できる。②③</li> <li>情報を取捨選択し、活用できるように 整理できる。②⑤</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料リストを作成し、管理できる。 ⑤</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文献管理ツールを使用し て、収集した文献情報を 活用できるように組織化 できる。⑤</li> </ul>
<u>5. 情報を批判的に検討し 知識を再構造化する</u> 整理した情報を批判的に検 討することで自らの知識を 再構造化する		<ul style="list-style-type: none"> <li>選択した情報、データおよび意見 を自分の文脈で意味づけ、自分の 言葉で説明できる。②</li> </ul>	
<u>6. 情報を活用・発信し、 プロセスを省察する</u> 社会倫理に則り、合法的に 情報を活用・発信し、情報 の受け手と適切なコミュニ ケーションを行う。また、 情報活用講堂全体を省察す る	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートの一般的な体裁を説明できる。 ②</li> <li>他人の文章と自分の文章を区別して書 くことができる。②</li> <li>読み手を意識してレポートをまとめる ことができる。②③</li> <li>引用と剽窃の違いを説明できる。②</li> <li>情報の典拠を明示し、適切に引用でき る。②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事實的・理論的な根拠を示しなが ら、問題提起に対応した主張を論 理的に述べることができる。②③</li> <li>著作権法等の情報倫理に留意でき る。②</li> </ul>	